

板橋区都市計画マスタープラン改定の役割

1. 板橋区都市計画マスタープラン改定の背景

都市計画法第18条の2に定められている都市計画マスタープランは、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として策定され、概ね20年後の将来像を見据えた、概ね10年間のまちづくりの取り組みを示した計画です。

区では、平成23年3月に「板橋区都市計画マスタープラン（第二次）」を策定していましたが、その後の社会経済情勢の変化、東日本大震災等の教訓を踏まえたまちづくり、上位計画である「板橋区基本構想」及び「板橋区基本計画2025」が策定されたことに伴い、都市計画マスタープランを改定します。

2. 板橋区都市計画マスタープラン改定の役割

本計画では、今後のまちづくりを推進するための都市づくりのビジョンを設け、板橋区に住んでみたい、住み続けたいと評価されるためのハード・ソフトを含めた、都市整備分野を超えた施策連携を行い、縦割りでない組織横断的な施策を実現することで、従来型の都市計画マスタープランにない戦略的な取り組みを展開していきます。

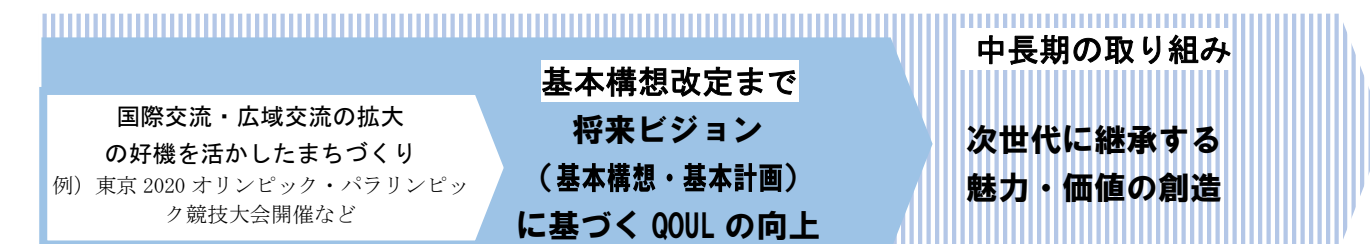
都市づくりのビジョンは、新たな視点としてつよみや地域の特徴を存分に引き出すことにより、多様な価値や魅力を創造し、新たなブランドイメージを構築します。

この都市づくりのビジョンに多種多様な価値観を持つ人々が「共感」することで、「都市生活の質（QOUL※）」を向上させ、「東京で一番住みたくなるまち」として評価されるまちをめざします。

3. 都市計画マスタープランの計画期間

本計画では、計画期間内における、国際交流・広域交流の拡大の好機を活かしたまちづくりや都市生活の質（QOUL）向上に向けた戦略的な取り組みのための方針とし、次世代に継承する魅力・価値の創造を視野に入れた中長期の取り組みを示します。

また、板橋区基本構想で定めた将来ビジョンの実現を目指すことから、板橋区基本構想の改定に合わせて、都市計画マスタープランを見直し、まちづくりを推進していきます。



【用語解説】

QOUL (Quality Of Urban Life)

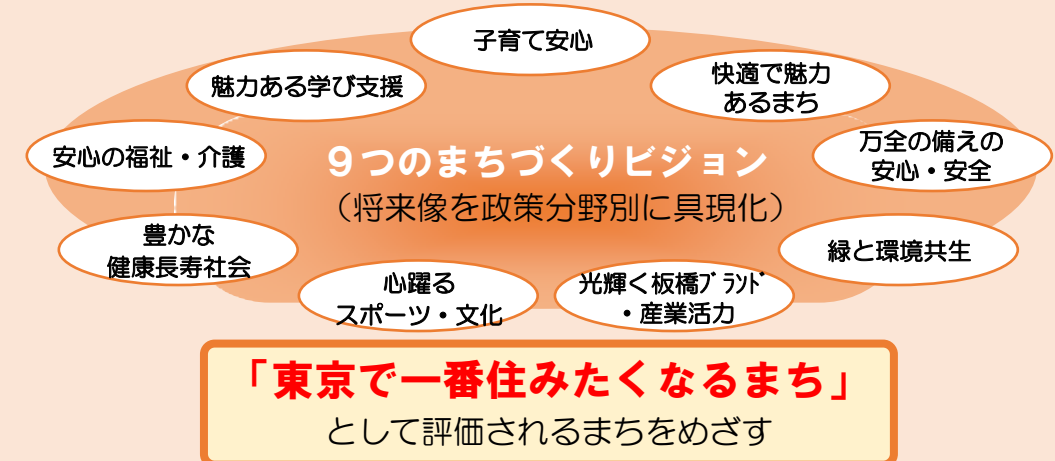
- 一般的に「人生の内容の質や、社会的に見た生活の質を指し、人がどれだけ人間らしい生活や、自分らしい生き方をしているか考えるためのもの」をQOLと言います。
- 区では、都市計画マスタープランにおいて、QOLにU（Urban）を追加し、「都市生活の質（QOUL）」と考えて取り入れます。

都市づくりのビジョン

- 都市計画・まちづくりの目標像とその実現に向けた戦略的な取り組み方針を定めています。
- このビジョンに基づく都市づくり（ハード・ソフト）と個別分野の取り組みを相互に作用・連携させ、区民からも区外からも住みたいと評価される板橋区をつくることを目指します。

板橋区基本構想の将来像

未来をはぐくむ 緑と文化のかがやくまち “板橋”



板橋区基本計画 2025（平成28年度～37年度）

- ★3つの基本理念に基づき、9つのまちづくりビジョンを実現するため、3つの基本目標と9つの基本政策を柱とした施策を体系化
- ★施策・組織横断的に協働・連携する戦略を「未来創造戦略」として明示

戦略の志向する都市像	「魅力創造発信都市」	戦 略	I 若い世代の定住化
	「安心安全環境都市」		II 健康長寿のまちづくり III 未来へつなぐまちづくり

※板橋区基本構想／板橋区基本計画2025

取組の具体化

板橋区都市計画マスタープラン改定のねらい

住んでみたい、住み続けたいと評価される「都市生活の質（QOUL）」を戦略的に高めていくための都市づくりのビジョンを明確化する

取組の具体化

「都市生活の質（QOUL）」が高まる

都市生活：居住、区内の移動、介護・子育て、健康づくり、防犯、事業所経営・就業、コミュニティ形成、学習・教育活動、文化・スポーツ活動、区民活動、企業のCSR活動 など

個別計画の策定・改定

次世代育成、地域福祉、環境、文化・スポーツ振興、産業振興、行政経営 など

相互に作用・連携

都市計画マスタープランの改定

- ◇都市計画・まちづくりの目標像
- ◇戦略的な取り組み方針

板橋区の特性と都市づくりの課題

■板橋区の特性

- ☆首都東京（特別区）の北部に位置し、**鉄道による都心・副都心へのアクセス（利便性）**の高いまち
- ☆崖線や荒川・石神井川などの河川を軸に、生物と共生できる**うるおいある環境**に恵まれたまち
- ☆市街地形成の変遷のなかで、**地域それぞれに多様な魅力と資源が息づく**まち（宿場町、都市農業、ものづくり、住宅地等）

江戸期

下屋敷
街道と宿場町
農村地

明治～戦前

鉄道の開業
都市化・近代工業化
住宅地分譲
近郊農村の形成

戦後～現代

交通網の整備
(道路・地下鉄)
住・商・工の
機能集積

■板橋区の人口動向

- ☆総人口は約 55 万 1 千人で緩やかな人口増が続く
⇒平成 32（2020）年をピークに人口減少へ転換
⇒高齢化が進行
⇒板橋地域や高島平二・三丁目ですく早くから人口減少
- ☆定住意向は強い反面、近接地域との移動が多い
⇒若年層は転入超過傾向を推察（大学進学や就職に当たる 20 代前半）
（25～39 歳の若年層は、近年は転入超過）
⇒子育て世代の特定の年齢層で転出超過を推察（子どもが 0～4 歳→5～9 歳の時期）

■区民の評価（アンケート結果）

- ☆満足度（上位 5 項目）
①最寄り駅の利便性／②駅からの距離／③バスの利用・鉄道への乗換えのしやすさ／④通勤のしやすさ／⑤買物のしやすさ
- ☆重要度（上位 5 項目）
①治安の良さ／②買物のしやすさ／③普段利用する道路が安全に歩けること／④災害に対するまちの安全性／⑤病院や診療所の利用のしやすさ
- ☆まちづくりの力点（上位 3 項目）
①年をとっても住み慣れた地域で暮らせるまちづくり／②犯罪が起きにくい環境づくり／③子どもたちが安心して安全に過ごせる環境づくり
- ☆「利便性の高い暮らしができる」と感じて板橋区（現住所）に住んでいる人が多い（約 4 割）

▶特徴的な資源

- ☆都内屈指のものづくり産業
- ☆大規模住宅団地や閑静な低層住宅地など**特徴ある住宅地**
- ☆旧中山道や板橋宿などの**歴史文化**
- ☆崖線や荒川・新河岸川・石神井川などの**緑と水、生物棲息環境のつながり**
- ☆武蔵野の面影とともにある**都市農業**
- ☆身近な駅や通りの活気ある**商店街**
- ☆地域それぞれの個性が作り出す**街並み・景観**など

⇒現行計画により資源を守り活かす取り組みが進展（景観計画、高度地区、地区計画、高島平グランドデザイン策定等）

▶将来に向けた問題

- ☆**人口減少、高齢化が本格化**
（一部地域では急速に進行）
- ☆**ライフステージの転換期に転出**
（就職した段階、結婚・出産 から子育て期の段階での区外への転出が推察）
- ☆**危険度の高い木造密集市街地**
（木造密集地域における不燃化関連事業が進むが、一部地域で木造家屋が密集）
- ☆**工場の操業環境と住環境の不調和**
（住工混在在市街地の残存）

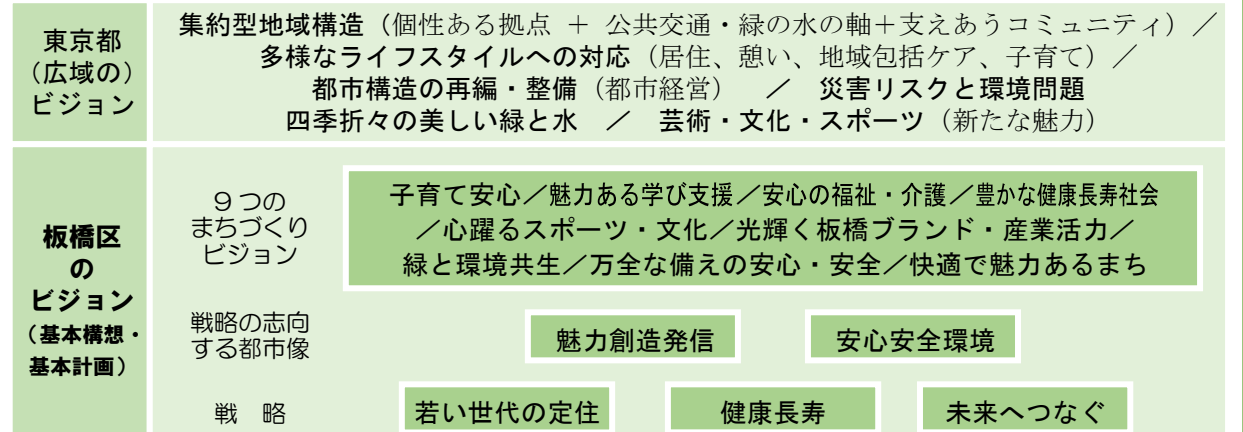
▶つよみ・優位性

- ☆**都心へのアクセスの良さ**（鉄道利用）
- ☆買物、通勤等の**暮らしの利便性**

▶区民が考える力点

- ☆暮らしの**利便性**
（買物・通勤・公共交通の利用）
- ☆**子育て環境**
- ☆まちの**安心・安全**
（身近な道路、防災・防犯）

■上位計画の将来ビジョンから見た重要キーワード



- 特徴的な資源を活かした持続可能な都市の構築が必要（環境、産業、まちづくり等）
- 人口減少時代・局所的に進む高齢化への対応が必要
- 利便性と安心・安全を軸にしたまちの価値創造が必要

■都市づくりの特徴と課題の明確化

視点① 板橋区のつよみを活かす、伸ばす

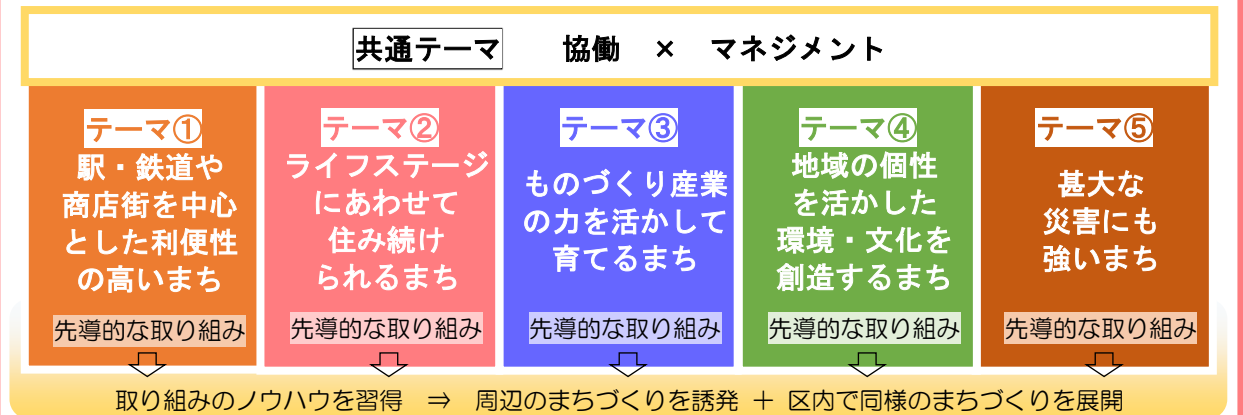
- | | |
|---------------------|--------|
| 〔身近な商店街の賑わい〕 | ⇒テーマ① |
| 〔ものづくり産業の活力と調和〕 | ⇒テーマ③ |
| 〔都心へのアクセスのよさ〕（利便性） | ⇒テーマ① |
| 〔崖線と水と緑、生物多様性、都市農業〕 | ⇒テーマ④ |
| 〔街並み・景観〕 | ⇒テーマ①④ |

視点② 次世代が魅力を感じる新しい価値を創造

- | | |
|----------------------|--------|
| 〔魅せる、体験する場所と多彩な交流機会〕 | ⇒テーマ② |
| 〔若い世代・子育て世代の魅力〕 | ⇒テーマ② |
| 〔健康長寿と生涯スポーツ〕 | ⇒テーマ② |
| 〔スマートシティ〕【要調整】 | ⇒共通テーマ |
| 〔災害対応力〕 | ⇒テーマ⑤ |

協働のまちづくり
+
全体を最適化する
マネジメント
〔評価・改善〕
〔連携・調整〕
↓
共通テーマ

「東京で一番住みたくなるまち」として評価されるまちをめざして・・・
～分野を超えた施策連携のための6つの都市づくりのテーマ（QOULテーマ）の設定～





都市づくりのビジョン

都市づくりのビジョンは、「1. QOULテーマ別の都市づくり」、「2. 板橋区がめざす将来都市構造」、「3. 都市整備分野別のまちづくりの展開方針」、「4. エリア別のまちづくりの展開方針」の4つの柱で取組方針を推進していきます。

1. QOULテーマ別の都市づくりの目標像・都市づくりの方向性

共通テーマ 協働 × マネジメント

■都市整備分野を超えた施策連携でQOULを高めるための目標像、そのための取り組みの方向性を明確化します。

【都市づくりの目標像】

板橋区全体を考えて、都市整備分野別のまちづくりや、区民活動のつながり（区民ネットワーク）を形成し、公共施設等の維持管理・活用、施策・事業の評価・改善など、都市づくりの事業や地域のまちづくり活動を組み合わせてより良いまちづくり（マネジメント）を進めます。

また、今まで取り組んでいた区民主体の構想・計画・まちづくりのルールづくりに加えて、マンション開発等の大規模開発事業に併せた、歩道や公園等の充実や、公共空間の創出、維持管理、活用・運営、ユニバーサルデザインやスマートシティなどにより、まちの課題を解決し、新たな魅力を作る区民・行政・大学・民間企業等の多様なまちづくり活動（協働）を活発にし、誰もが住みたいと感じられるまちづくりを進めます。

【都市づくりの方向性（施策）】将来イメージ実現に向けた取り組み＋他部門との連携策

- ◇協働のまちづくりを発展・充実させるしくみづくり（民間の開発事業者、大学、大学病院等）
- ◇多様な力を結集しやすい施策・事業の重点化や、パッケージ化による事業の効果的推進と評価・改善
- ◇コミュニティ主体の協働のまちづくりを発展・充実させるしくみづくり例）公共施設等の維持管理・活用と連動した拠点育成、ネットワークの充実、市街地整備の推進 など
- ☆連携策の例（ユニバーサルデザインやスマートシティの視点を含めたまちづくりの推進等、公共空間を活用した魅力発信、エリアマネジメントなどの手法を取り入れた組織づくり・支援）

テーマ① 駅・鉄道や商店街を中心とした利便性の高いまち

【都市づくりの目標像】

都心・副都心に直結する鉄道やバス、自転車を利用した区内移動、徒歩で暮らしやすいまちづくりを行います。板橋駅周辺を都市の玄関（ゲート）のひとつとして広域交流機能を強化するとともに、地域交通の結節点となる主要な駅周辺で、にぎわいのある商店街と一体となって、利便性の高い多様な都市機能が集積した生活拠点を形成し、交通ネットワークで連携させていきます。

関連分野： [拠点育成・土地利用](#) [道路・交通](#) [都市環境](#) [街並み・景観](#) [安心・安全](#)

【都市づくりの方向性（施策）】将来イメージ実現に向けた取り組み＋他部門との連携策

- ◇駅を中心とした広域都市拠点・都市拠点・生活拠点の育成（都市機能・公共空間の充実、基盤整備、顔づくり、低炭素化、駅周辺における業務機能の誘導等）
- ◇交通結節点の強化とバス・自転車走行空間・歩行空間のネットワークの充実
- ◇商店街の活性化と連携した拠点機能の充実
- ☆連携策の例（誰もが利用しやすい交通・公共空間、活力ある商店街の形成・支援、屋外サイン、多言語対応、安心安全のまちづくり、帰宅困難者対策等）

テーマ② ライフステージにあわせて住み続けられるまち

【都市づくりの目標像】

若い世代の転入が多い特徴を活かして、進学・就職、結婚・出産、子育て・子どもの進学等の各段階において、多様性のある地域ごとの特性を伸ばして区内に住み続けたいと感じられる魅力を高めていきます。また、外出したくなってまちを歩く、気軽にスポーツを楽しめる、住み慣れたまちで永く暮らせるなど、高齢になっても安心して住み続けられるまちを形成していきます。

関連分野： [拠点育成・土地利用](#) [道路・交通](#) [住宅・コミュニティ](#) [緑と水](#) [都市環境](#) [安心・安全](#)

【都市づくりの方向性（施策）】将来イメージ実現に向けた取り組み＋他部門との連携策

- ◇ライフステージのニーズに応じた住み替え・定住の促進（マンション・戸建て住宅等のストック活用、老朽マンション等の建替え促進、住宅団地の更新の誘導等）
- ◇歩いて楽しくなる日常生活圏域の形成（みち、施設、回遊性、バリアフリー）
- ◇子育て、教育、介護、健康・医療、スポーツ、交流などの機能（サービス施設）の充実と相互連携
- ☆連携策の例（保健福祉、住宅、医療分野と連携したまちづくり、子育てファミリー層に住み続けてもらえる魅力づくり、女性が働きやすく、暮らしやすいまちづくり、大学との連携・強化等）

テーマ③ ものづくり産業の力を活かして育てるまち

【都市づくりの目標像】

将来にわたって、都内屈指のものづくり産業の活力を維持、発展させるため、新たな企業立地や産業育成を進めていきます。また、拠点づくり、都市基盤整備、土地利用の規制・誘導などに際して、板橋のものづくり産業のブランド力を高め、発信していくことを意識したまちづくりを進め、地域経済を活性化させていきます。

【都市づくりの方向性（施策）】

関連分野：[拠点育成・土地利用](#) [街並み・景観](#) [安心・安全](#)

将来イメージ実現に向けた取り組み＋他部門との連携策

- ◇工業系用途地域における工場等の操業環境の維持・充実
- ◇住・工の共存・調和のある市街地環境の創出
- ◇ものづくり産業のブランド価値を創造・発信する拠点の育成
- ☆連携策の例（ものづくりベンチャーなど研究開発型企業の誘致・育成、都市型ものづくりのイノベーションを促進する拠点の育成、大学との連携、企業のBCPの策定支援等）

テーマ④ 地域の個性を活かした環境・文化を創造するまち

【都市づくりの目標像】

水と緑、生物多様性、都市農業、街並み・景観など、地域それぞれの魅力や資源を際立たせて、暮らしの環境をより一層、価値の高いものにしていきます。また、まちを魅せる、体験する、交流する場を充実させることで、多くの人が地域で暮らす魅力・誇りを実感し、継承できるよう、まちづくりを進めます。

【都市づくりの方向性（施策）】

関連分野：[拠点育成・土地利用](#) [道路・交通](#) [緑と水](#) [都市環境](#) [街並み・景観](#) [安心・安全](#)

将来イメージ実現に向けた取り組み＋他部門との連携策

- ◇自然を活かした土地利用・景観の保全
- ◇歴史的・文化的視点を織り込んだまちづくり（景観の保全・創出）
- ◇板橋固有の自然や歴史・文化に触れ、体験・交流する拠点の充実
- ◇まちの回遊性の向上（歴史文化資源の回遊性向上、おもてなしの空間づくり）
- ☆連携策の例（板橋区農業振興計画、後継者養成、インバウンドを取り込んだ観光振興、空地の活用、水辺や文化資源に顔を向けたまちづくり、環境教育の推進等）

テーマ⑤ 甚大な災害にも強いまち

【都市づくりの目標像】

「災害に強いまち」としての板橋区の評価を確実なものにするため、首都直下地震などの災害発生時に、人的・物的被害を最小限に食い止め、都市機能や社会サービスの維持・迅速な復旧・復興を可能とする対応力を高めていきます。また、日常生活圏のほか、行政や地域経済（産業）、緊急輸送のネットワーク、ライフライン、コミュニティ（ひと・組織）など、様々な場面で高い対応力を発揮できる事前の備えを進めます。

関連分野：[拠点育成・土地利用](#) [道路・交通](#) [住宅・コミュニティ](#) [緑と水](#) [安心・安全](#)

【都市づくりの方向性（施策）】

将来イメージ実現に向けた取り組み＋他部門との連携策

- ◇防災都市づくりの推進
（延焼遮断帯の形成、木造住宅密集市街地の改善、建物の耐震化・不燃化等）
- ◇災害時に区民と暮らしを守る拠点・ネットワーク・コミュニティの充実
（避難・救援、物資輸送、ライフライン等）
- ◇災害発生後の事業継続、迅速な復旧・適切な復興のための事前準備（事前復興、訓練等）
- ☆連携策の例（避難勧告等の情報発信、中小企業が取り組みやすい業務継続計画の普及促進、物流業者との円滑な連携、都市復興マニュアル・生活復興マニュアルを基にした対応、空き家の活用等）

2. 板橋区がめざす将来都市構造（ 仮イメージ ）

■拠点や軸（ネットワーク）など、都市の基本的な骨格を明確化します。

～基本的考え方～

- 鉄道による都心・副都心へのアクセス性（利便性）の高さを活かして、円滑・快適な地域間移動、広域移動を支える軸の形成を目指す。
- 多様な特性を持つ8つの地域をつなぎ、相互の移動や交流により、それぞれの魅力が享受しやすい都市構造を目指す。
- 都心・副都心に近接し、板橋区の玄関（ゲート）のひとつとなる板橋・大山周辺や、荒川・新河岸川沿いの工場集積地など、板橋区の顔となる拠点の育成を目指す。
- 地域の生活の中心となっている鉄道駅や、周辺の商店街等、地域毎の特性を活かして、利便性の高い都市拠点・生活拠点を育成する。
- 崖線や荒川、新河岸川、石神井川を軸に、区民や様々な生物にとって快適な都市環境の形成を目指す。

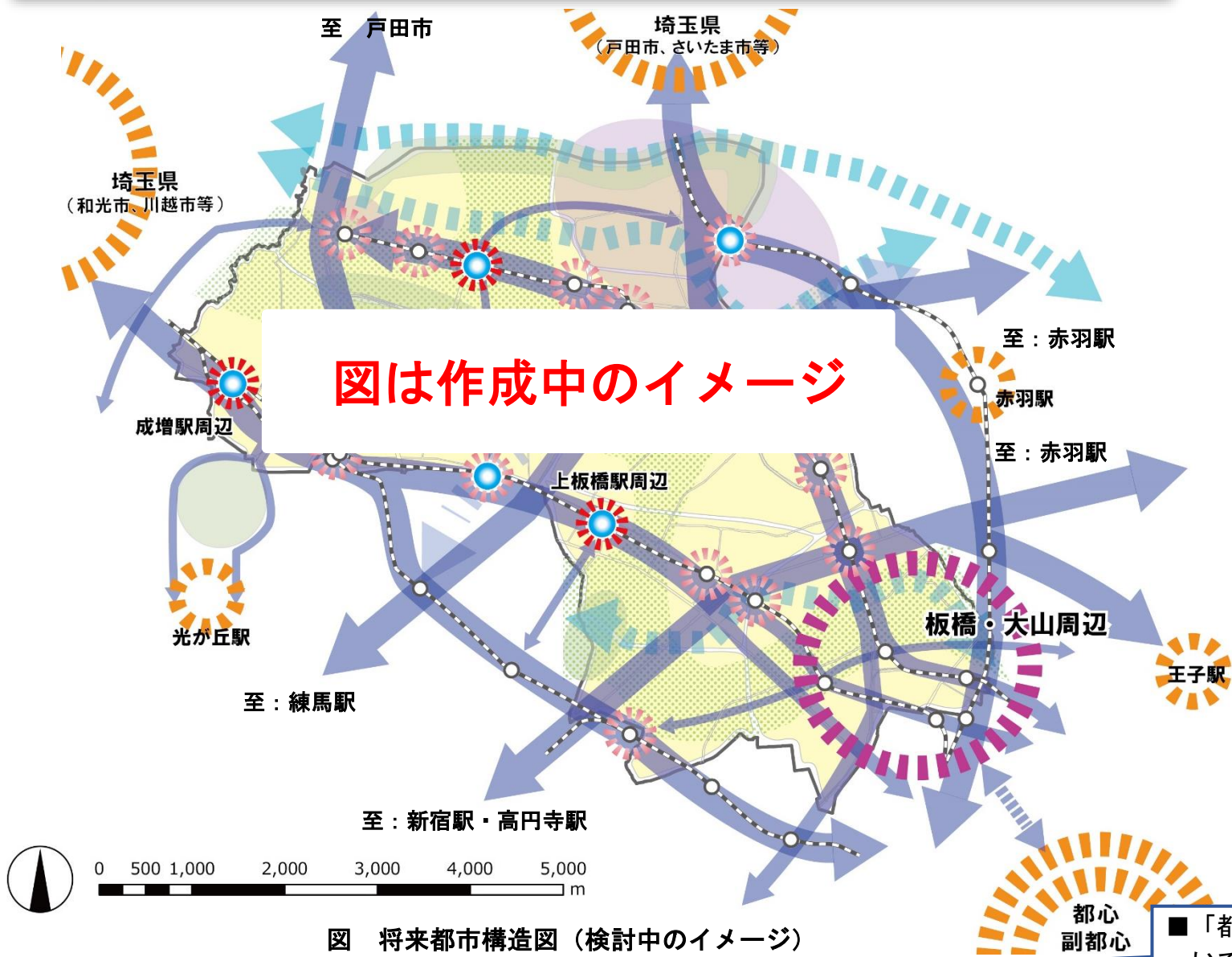


図 将来都市構造図（検討中のイメージ）

種 別			位置づけ・役割
拠点	広域都市拠点		都心・副都心とのアクセス性が高い板橋区の玄関（ゲート）のひとつとして、商業・業務機能に加え、観光・交流・情報等の広域機能や、板橋宿・商店街等の回遊性、石神井川などを軸にした快適環境が充実した拠点。 【主な対象】：板橋駅周辺、新板橋駅周辺、下板橋駅周辺、大山駅周辺、板橋区役所前駅周辺、仲宿・大山等の商店街、加賀の史跡公園等
	都市拠点		板橋区の中央、西部の拠点として、周辺地域の暮らしの利便性にぎわい、交流を支える機能が充実した拠点。 【主な対象】：高島平駅周辺、上板橋駅周辺、成増駅周辺（成増駅・地下鉄成増駅周辺）
	生活拠点		駅利用圏の日常生活の利便性を支え、商業・サービス機能が確保された拠点。 【主な対象】：都市拠点以外の鉄道駅周辺
	産業拠点		既存の産業集積を土台とし、新たな産業活力が醸成されて、都内屈指のものづくり産業の力が維持・創出される拠点。 【主な対象】：荒川・新河岸川沿いの工場集積地、トラックターミナル
地域交通結節点			地域内の移動のための主要な交通結節点として、鉄道とバス等の乗換えの利便性や、安全性・快適性を確保する鉄道駅。 【主な対象】：高島平駅、成増駅・地下鉄成増駅（候補）上板橋東武練馬駅、志村三丁目駅、浮間舟渡駅
広域移動軸			板橋区と都心・副都心をつなぐ幹線道路・鉄道の移動軸 【主な対象】：都営三田線、東武東上線、JR 埼京線、東京メトロ有楽町線、副都心線 国道 17 号、国道 254 号、環状 7・8 号線等
地域間移動軸			区内（地域間の移動）を支えるバス路線による、主要な移動軸。
河川軸			荒川、石神井川、新河岸川による環境・景観の軸
崖線を軸とした緑のつらなり			生物の生息環境の連続性や、地域の快適環境をつくりだす崖線の緑や湧水、公園・緑地、農地などのつらなり。
みどりの拠点			快適な都市環境形成の拠点であるとともに、区民の健康づくりやレクリエーションの場、憩いの場、防災拠点など多様な機能を有する大規模な公園・緑地。 【主な対象】：城北中央公園、赤塚公園、浮間公園、荒川河川敷、小豆沢

■「都市整備分野別のまちづくりの展開方針」では、主に、都市計画・まちづくりの領域について、分野ごとの施策・事業展開の指針として取りまとめます。

3. 都市整備分野別のまちづくりの展開方針

（１）拠点育成・土地利用の誘導

【基本的な考え方】

- ・区全体の視点から、土地利用の特性（業務地、住宅地、住宅団地、工業地、住工共存エリア、商店街、農地）を踏まえた土地利用の誘導を行い、良好な市街地の形成を図ります。
- ・良好な市街地環境を形成しているゾーンでは、良好な環境の維持・向上を図り、都市拠点や生活拠点、産業拠点など都市づくりの拠点となっているゾーンでは、望ましい土地利用の誘導を通じた拠点形成を図ります。

【都市づくりの方針】

- 土地利用特性を踏まえた土地利用の誘導
- 地域特性に応じたきめ細かな土地利用の誘導（駅を中心としたまちづくり・集約型都市構造など）

（２）道路・交通ネットワークの形成

【基本的な考え方】

- ・既存の鉄道ネットワークと鉄道駅間や主要公共施設、区民生活を支える地域センター等を結ぶバス路線からなる公共交通の利便性向上、区の主な道路交通基盤である主要幹線道路及び補助幹線道路を中心とした、都市計画道路網の充実、東武東上線の連続立体化事業の促進等を通じて、交通利便性の向上と防災性、安全性の向上を図ります。
- ・都市計画道路については、幹線道路がもつ多様な機能を踏まえて優先的に整備すべき路線を抽出し、整備を促進します。
- ・歩行空間のユニバーサルデザインの推進と自転車利用環境の整備により、安全で環境に優しい移動環境の充実を図ります。

【都市づくりの方針】

- 総合的な交通政策の推進、○公共交通の利便性向上
- 階層的な道路網の整備、自転車利用環境の整備、道路橋梁の適切な維持管理
- ユニバーサルデザイン・バリアフリー化の推進 等

（３）住宅・コミュニティの形成

【基本的な考え方】

- ・マンションや戸建住宅等のストックの活用、老朽マンションの建替え促進、住宅団地の更新の誘導等を通じて、多様な住まいのニーズに応じた定住促進、ライフステージのニーズの変化に応じた住み替えの促進を図ります。
- ・若者・子育て世代が、多様性のある地域ごとの特性を伸ばして区内に住み続けたいと感じられる魅力の創出、高齢になっても安心して住み続けられる生活圏の形成を図ります。

【都市づくりの方針】

- 大規模住宅団地の適切な更新の誘導、住宅ストックの維持・更新の誘導
- ライフステージのニーズに応じた住み替え・定住の促進
- 歩いて楽しくなる日常生活圏域の形成
- 若者・子育て世代の定住促進に資する機能（生活利便施設、運動施設等）の充実と相互連携
- 誰もが安心して移動、利用できる環境づくり

（４）緑と水の創出・保全

【基本的な考え方】

- ・大規模公園や中小河川の水と緑のうるおいのある街並み、民有地の緑、農地、崖線の緑、レクリエーション空間となる河川敷の緑地など様々な緑がもつ多面的な機能を活かしたまちづくりを進めます。
- ・誰もが安全・快適に利用できる公園施設のユニバーサルデザインの推進や多様なニーズに応じた特色のある公園づくり、災害時における防災機能の向上を図ります。

【都市づくりの方針】

- 生態系に配慮した緑と水の保全・創出
- 農・まちづくりと連携した農地や緑の保全・活用
- 区民に親しまれる公園・緑地の整備・適切な維持管理

（５）都市環境（低炭素型社会）の向上

【基本的な考え方】

- ・まち全体の二酸化炭素の排出削減や省資源化を進め、環境配慮型の都市構造の形成を図ります。

【都市づくりの方針】

- 低炭素社会の構築、○自然環境と生物多様性の保全、うるおいのある生活環境の形成

（６）街並み・景観の形成

【基本的な考え方】

- ・区全体の顔となるまちづくり、にぎわい・交流を産み出すまちづくりなど、地区の特性を活かしたまちづくりに寄与する、板橋区の特徴ある景観資源を活かした街並み・景観の保全・形成を図ります。

【都市づくりの方針】

- 区全体の景観の質の向上、○地域特性を活かした街並み・景観の形成

（７）安心・安全なまちづくり

【基本的な考え方】

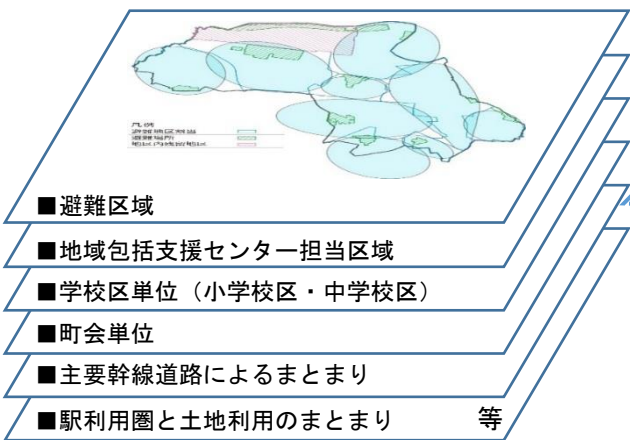
- ・防災対策に係る施設整備等を進め、誰もが日常時から災害時まで安全で安心して暮らし、働くことができるまちの実現を図ります。
- ・首都直下地震等の大規模災害による被害を出来るだけ抑制するとともに、発災後迅速な復旧・適切な復興をするために必要な事前復興の取り組みを進めます。
- ・防犯対策の推進により、誰もが日常時から災害時まで安全で安心して暮らし、働くことができるまちの実現を図ります。

【都市づくりの方針】

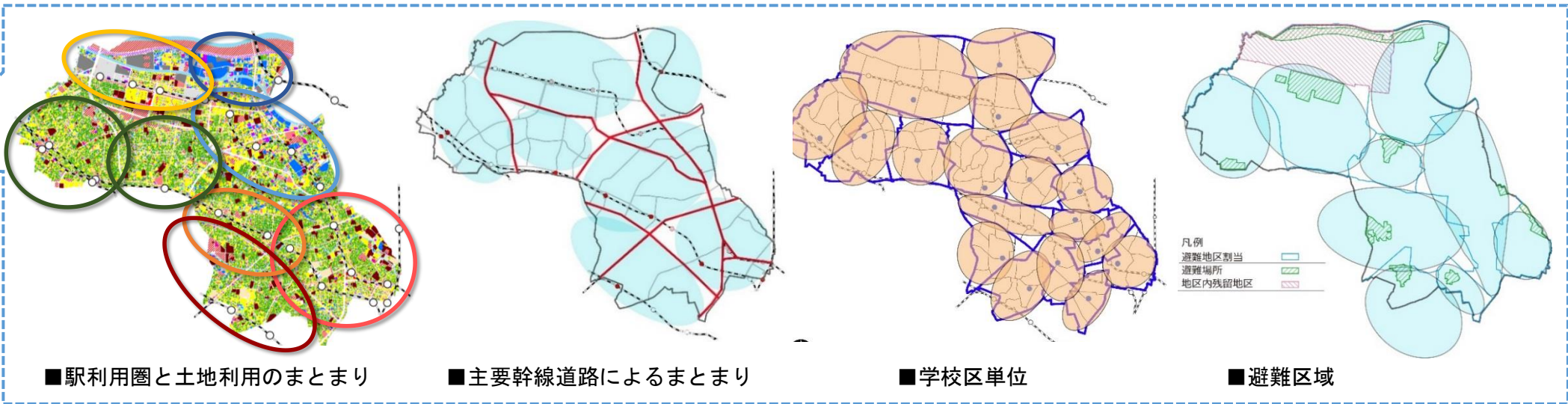
- 防災拠点のネットワーク形成（緊急輸送道路の整備、防災拠点の整備、延焼遮断帯の形成による市街地の不燃化の促進 等）
- 大規模災害からの迅速な復旧・適切な復興（災害時の機能維持、適切な復興に向けた事前復興の推進）

4. エリア別のまちづくりの展開方針（エリア区分の設定）

■エリアごとの特性・課題に応じて、まちづくり展開の方向性を明確化します。
（今回の改定骨子では、エリア区分の考え方で示します）



※GIS を用いて各種データを重ね検討



1. エリア別のまちづくりの展開方針とは

エリア別のまちづくりの展開方針では、都市づくりのビジョンにおけるエリア別の特徴を存分に引き出すことで、多様な価値・魅力を創造すると共に、エリアごとの課題に対応したきめ細やかなまちづくりを実現します。

2. エリア区分の設定

エリア区分では、これまでの5地域の地域活動やコミュニティのまとまりを踏まえつつ、区民の生活の拠点となっている鉄道駅を中心とした日常的な買い物、通勤・通学等の行動が主に行われている範囲や、多種多様な土地利用のまとまり、地形等を考慮したまちづくりについてのエリアを新たに設定します。

【エリア区分で配慮した空間のまとまり】

- 区民の日常的に利用する主な移動手段である鉄道駅の利用圏域（各駅から概ね400～500mの範囲内、各駅の利用者が多い町丁目（アンケート調査）を基に設定します）
- 商業地、住宅地など同じ土地利用が広がっているまとまり
- 地区レベルのまちづくりの担い手である区民・事業者にとって身近な、町会等の日常的なコミュニティ活動が行われている範囲（幹線道路で囲まれた範囲、町会単位、学区区単位等）

■ エリア区分と駅利用圏の想定

区 分	主な駅利用圏
①板橋・大山エリア おおむね、環状7号線と都道420号線の都心側のエリア	〔JR埼京線〕 板橋 〔都営三田線〕 新板橋—板橋区役所前—板橋本町 〔東武東上線〕 下板橋—大山—中板橋
②大谷口・向原エリア おおむね、放射8号線（川越街道）より南側のエリア	〔有楽町線・副都心線〕 小竹向原 ※エリアの北側は東武東上線の利用が想定される
③上板橋・常盤台エリア おおむね、環状7号線から環状8号線間の東武東上線の利用圏のエリア	〔東武東上線〕 中板橋—常盤台—上板橋
④小豆沢・志村エリア おおむね、環状7号線から新河岸川までの都営三田線の利用圏のエリア（前野町までのエリア）	〔都営三田線〕 本蓮沼—志村坂上—志村三丁目—蓮根—西台 ※エリアの南側は東武東上線の利用が想定される
⑤徳丸・西台エリア おおむね、環状8号線から放射35号線（新大宮バイパス）までの東武東上線の利用圏のエリア	〔東武東上線〕 東武練馬
⑥赤塚・成増エリア おおむね、放射35号線（新大宮バイパス）より西側の東武東上線・有楽町線・副都心線の利用圏のエリア	〔東武東上線〕 下赤塚—成増 〔有楽町線・副都心線〕 地下鉄赤塚—地下鉄成増
⑦新河岸・高島平エリア おおむね、首都高5号線から荒川までの都営三田線（西台駅以西）の利用圏のエリア	〔都営三田線〕 西台—高島平—新高島平—西高島平
⑧坂下・舟渡エリア おおむね、荒川から新河岸川までの工業専用地域・工業地域で舟渡以東のエリア	〔JR埼京線〕 浮間舟渡 ※エリアの南側は都営三田線の利用が想定され

